

1. 職名・氏名 教授 島田洋一

2. 学位 学位 法学修士、専門分野 政治学、授与機関 京都大学、授与年月 1982年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 国際政治学（2単位 毎年開講） 1～4年生 （2003年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい 現在進行中の安全保障問題を英語の資料を用いて講義することを通じ、国際政治の深い理解とともに、国際政治関係の英語力涵養にも意を用いた。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英語の文章教材とともに、地図を中心に映像教材を多く使って講義を進めた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 国際関係論（2単位 毎年開講） 1～4年生 （2003年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい 現在進行中のさまざまな国際関係事例を英語の資料を用いて講義することを通じ、国際関係の深い理解とともに、関連分野の英語力涵養にも意を用いた。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英語の文章教材とともに、地図を中心に映像教材を多く使って講義を進めた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 政治学（2単位 毎年開講） 1～4年生 （2003年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい 現在進行中の内政問題（特に日米比較）を英語の資料を用いて講義することを通じ、政治事象の深い理解とともに、関連分野の英語力涵養にも意を用いた。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英語の文章教材とともに、地図を中心に映像教材を多く使って講義を進めた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位 毎年開講） 1年生 （2003年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい 国際政治関係の英語資料を用いて、輪読・討論を行うことを通じ、国際政治の理解とともに、関連分野の英語力涵養にも意を用いた。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英語の文章教材とともに、地図・地球儀・関連写真などを用いて授業を進めた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（1単位 毎年開講） 1～4年生 （2003年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい 国際政治関係のやや高度な（教養ゼミよりも）英語資料を用いて、輪読・討論を行うことを通じ、国際政治の更なる理解とともに、関連分野の英語力涵養にも意を用いた。	

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英語の文章教材とともに、地図・地球儀・関連写真・インターネット・音声教材 (audio book) などをを用いて授業を進めた。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 学術ゼミ (1 単位 毎年開講) 1～4 年生 (2005 年度以前～2019 年度)
② 内容・ねらい 国際政治関係のやや高度な (自由特論よりも) 英語資料を用いて、輪読・討論を行うことを通じ、国際政治の更なる理解とともに、関連分野の英語力涵養にも意を用いた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英語の文章教材とともに、地図・地球儀・関連写真・インターネット・音声教材 (audio book) などをを用いて授業を進めた。
(2)非常勤講師担当科目
①担当科目名 (単位数) 開講学校名
②内容・ねらい
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
④本学における業務との関連性
3)その他の教育活動
国際政治関係の英語力向上に意欲のある学生に対し、研究室において、個別に読解指導などを適宜行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 「連載・アメリカはどう動くか」『現代コリア』2004年9月号～2007年11月号 「伊豆見元批判」『諸君!』2005年3月号 「東京裁判史観見直しの好機と障害」『正論』2005年9月号 「尖閣と日米関係」『新日本学』第19号 (拓殖大学日本文化研究所、2010年12月20日発行) 「崩壊か、再生か…日米同盟の行方」『正論』2011年2月号 「核と瀬戸際外交」『正論』2012年2月臨時増刊号 「偏向教科書が生まれる過程」『正論』2012年7月号 「北と中国を緊張させる『アメリカ人拉致』」『正論』2012年7月号 「アメリカにおける日中情報戦の最前線」『正論』2013年5月号 「日本再生の処方箋ーレーガン保守と日本について」『正論』2013年10月号 「慰安婦・対国連の日本政府『幻の反論書』全文(下)解説」『正論』2014年7月号 「米朝核問題ー枠組合意から20年を振り返る」『海外事情』2014年9月号 (拓殖大学海外事情研究所) 「米軍資料が証拠だ! 朝日「慰安婦問題の本質」性奴隷論への反駁」『正論』2014年10月号 「米国の怒りと習近平への“ハニートラップ”」『正論』2018年2月号 「金正恩を追い詰める非核化の成功例リビア・モデル」『月刊ハナダ』2018年7月号 連載「アメリカの深層」『正論』2014年9月号～ 連載「天下の大道」『WILL』2016年8月号～
②著書 『アメリカ・北朝鮮抗争史』 (文春新書、2003年) 共著『金正日に正しいメッセージを』 (自由国民社、2005年) 共著『韓国・北朝鮮のウソを見破るー近現代史の争点30ー』 (文春新書、2006年) 共著『南・北朝鮮 同時崩壊か?』 (中央公論、2007年) 共著『ぼくらの核武装論』 (オークラ出版、2007年)

<p>共著『中国の真実』（オークラ出版、2008年）</p> <p>共著『「慰安婦・南京」の真実』（オークラ出版、2008年）</p> <p>共著「日本よ「戦略力」を高めよ」（文藝春秋、2009年）</p> <p>共著『迷走日本の行方』（オークラ出版、2009年）</p> <p>共著『アメリカとは何か』（オークラ出版、2010年）</p> <p>共著『日本とインドーいま結ばれる民主国家』（文藝春秋、2012年）</p> <p>共著『日本の勝機』（産経新聞出版、2014年）</p> <p>共著『新アメリカ論』（産経新聞出版、2015年）</p>
③学会報告等
<p>④その他の公表実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ議会下院公聴会における意見陳述「北朝鮮による外国人拉致について」2006年4月27日。 <p>Congressional Hearing On Abduction of Foreign Citizens by North Korea April 27th, 2006 House Committee on International Relations: Subcommittee on Asia and the Pacific and the Subcommittee on Africa, Global Human Rights and International Operations http://www.internationalrelations.house.gov/archives/109/shi042706.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衆議院拉致問題特別委員会での証言、2012年6月1日 ・朝鮮半島研究プロジェクト通信「恵岡隆一レポート」（日本政策研究センターウェブサイト）に4人の研究会メンバーが交互に執筆連載中） http://www.seisaku-center.net/modules/wordpress/index.php?cat=29 ・「今週の直言」（国家基本問題研究所）2011年1月以降、適宜執筆・発表。英語版も同研究所ウェブサイトに掲載。http://jinf.jp/
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） 政府「拉致問題に関する有識者との懇談会」委員。北朝鮮による拉致問題の解決策について、拉致問題担当大臣を議長に審議。2013年2月から現在に至る。
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） 北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会副会長 公益法人国家基本問題研究所評議員兼企画委員

④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内の) 企業等での活動 (企業名、活動内容、活動期間)
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間)
⑥ その他 (名称、活動場所、活動期間)
(2) 大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 (タイトル名、開催場所、開催日時)
② 社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時)
③ その他 (名称、活動場所、活動期間)
(3) その他 (個人の資格で参加している社会活動等) (活動内容、主たる活動場所、活動期間)

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2) 委員会・チーム活動 (名称、期間)
(3) 学内行事への参加 (行事名、参加日時)
(4) その他、自発的活動など (活動名、活動内容、活動期間)